

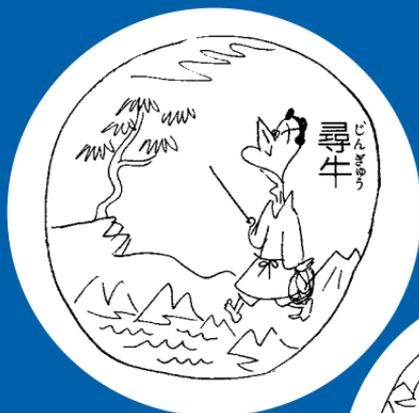


秋竜山の公案コミック 仏が笑う十三話

禅は拈華微笑に始まり、呵々大笑に至る

秋 竜 山 著

十牛図



はじめに 仏は笑う

ぼくが禅の公案をなぜ好きかという、なんというか、おもしろいんですね。ユーモア的なものを感じるんです。

禅は、釈尊の拈華微笑ねんげみしやうから始まったと伝えられています。拈華微笑は、釈尊が黙って花をもって、みんなに見せると、弟子たちは何のことかわからずに、あぜんとするなかで、迦葉かしょうという弟子だけがにつこりほほえんだ。それによつて釈尊は、自分とおなじ悟りを迦葉が得たと認めたというお話です。

この拈華微笑のとき、もし迦葉がにこつと笑つなかつたら、どうなるのでしょうか。禅の流れはそこでブツンと途絶えていたはずですよ。

われわれのコミュニケーションでも、そうでしょう。お互いににこつとあつて、「うん、うん」とうなづく。本当にわかつたときに、にこつと笑うでしょう。

そういう笑いが、人類全体にあるといいなと思いますね。笑いは人間にとって、ものすごく

大切というか、必要なものだと思うんです。

だけど、科学がどんどん進歩していくと、人間から笑いというものがなくなっていくという話もあります。最後にはまったく笑わない人間になってしまおうと……。

そういう世界はいやですねえ。心が通じない。

マンガ家は、人間にはどういう笑いがあるのかと一生懸命かんがえて作品にしているわけですが、マンガのナンセンスギャグも、常識的なものをぶつ壊したところが笑いになる。禅でいうかかたいしょう 呵々大笑も、そういう底抜けの笑いなんですよ。

それは要するに、驚きの世界なんです。表だけ見ていたのをひっくり返して裏を見たときのように、常識的に見ていたら気付かないようなことを何気なく出したとき、はっと気付いて驚く。「そういうえば、そんなことをやってるなあ」と思ったりして、驚いた後に笑いが生ずる。それは普通の意味のユーモアとは全然違うわけです。ぼくが公案をおもしろいなあと思うのは、そういうところなんです。読者といっしょに驚いて、それぞれが何かを感じてもらえれば幸いです。

秋 竜山

はじめに	仏は笑う	2
第一話	喫茶去	7
第二話	岩喚主人	35
第三話	趙州狗子	55
第四話	俱胝豎指	67
第五話	南獄磨磚	85

第六話	洞山麻三斤	99
第七話	葉山大笑	115
第八話	德山托鉢	127
第九話	南泉鎌子	141
第十話	馬祖野鴨	153
第十一話	丹霞燒仏	165
第十二話	無寒暑	183
第十三話	香巖上樹	189



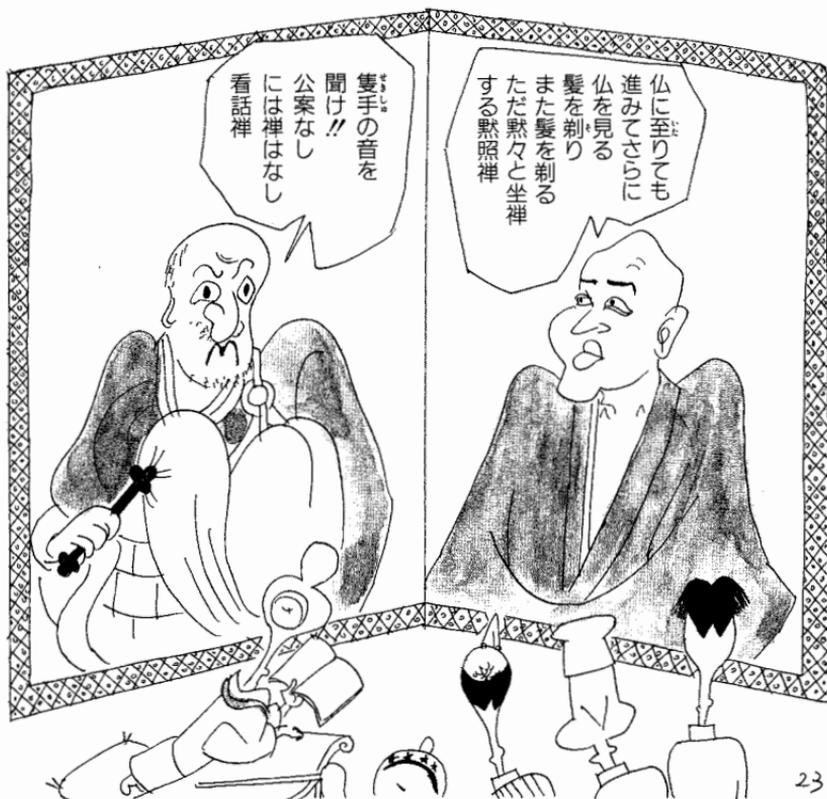
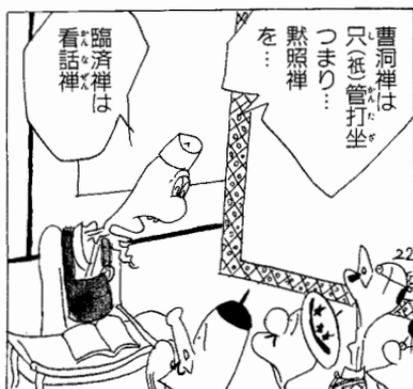
【第二話】 岩喚主人











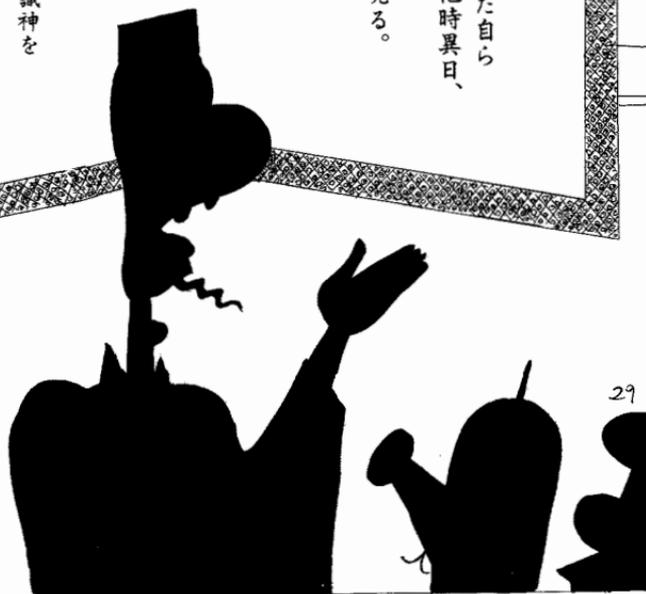


岩喚主人

瑞岩彦和尚、毎日自ら主人公と喚び、また自ら
応諾す。すなわち云わく、惶々著、喑。他時異日、
人の瞞を受くることなかれ。喑、喑。
無門曰わく、瑞岩老子、自ら買い、自ら売る。
そこばくの神頭鬼面を弄出す。
何が故ぞ。聾。一箇は喚ぶ底、
一箇は応ずる底。一箇は惶々底、
一箇は人の瞞を受けざる底。
認著すれば依前として還つて不是。
もしまた他に倣わば、惣にこれ野狐の
見解ならん。

頌に曰わく

学道の人、真を識らざるは、ただ従前の識神を
認むるがためなり。
無始劫来生死の本、痴人は喚んで本来人となす。

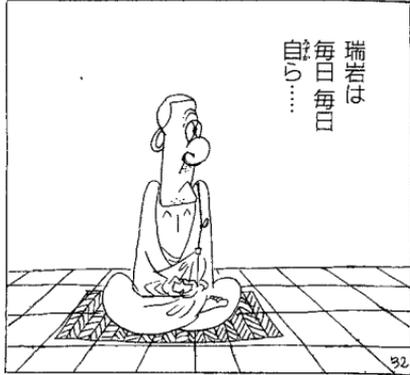


29

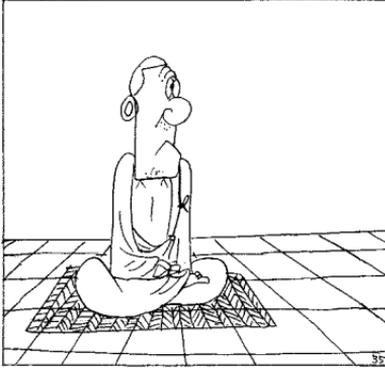




33



32



35



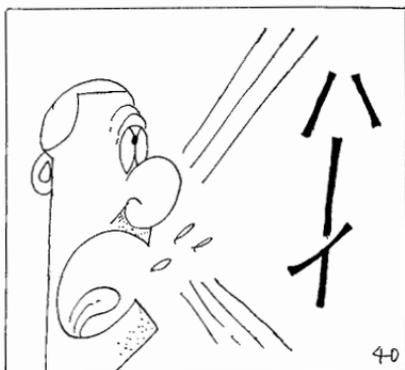
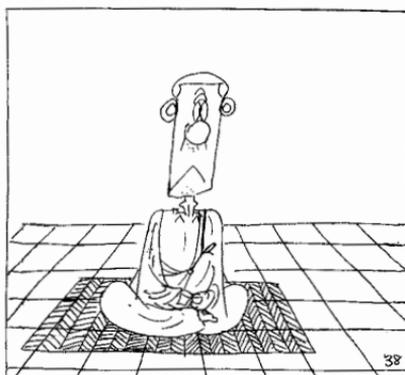
34

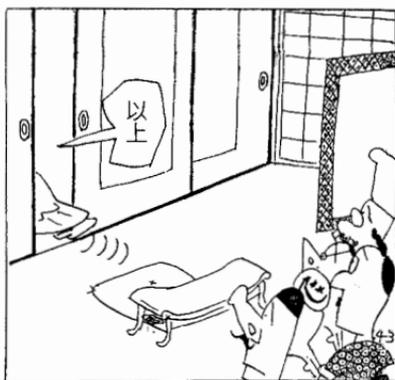
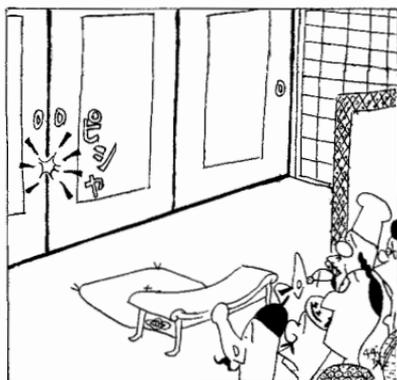


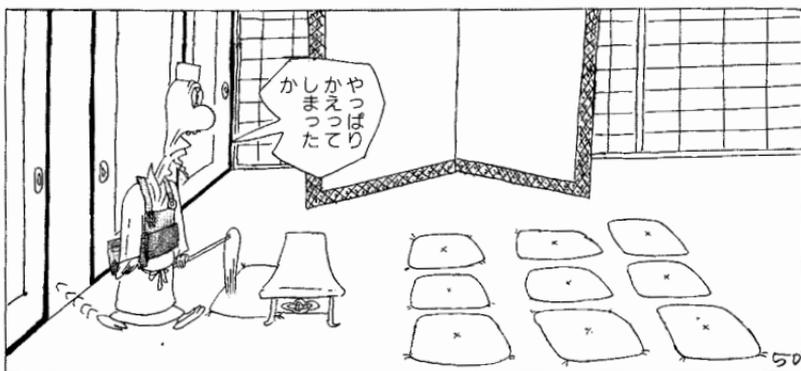
37



36

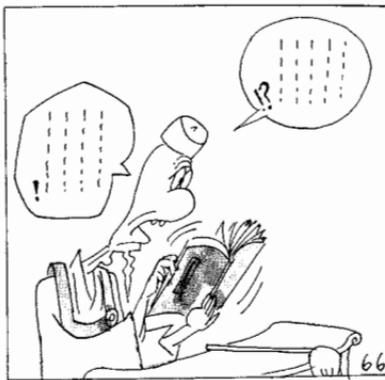


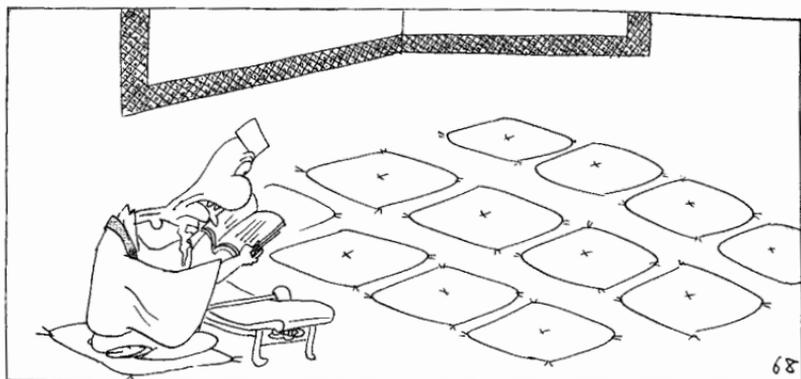


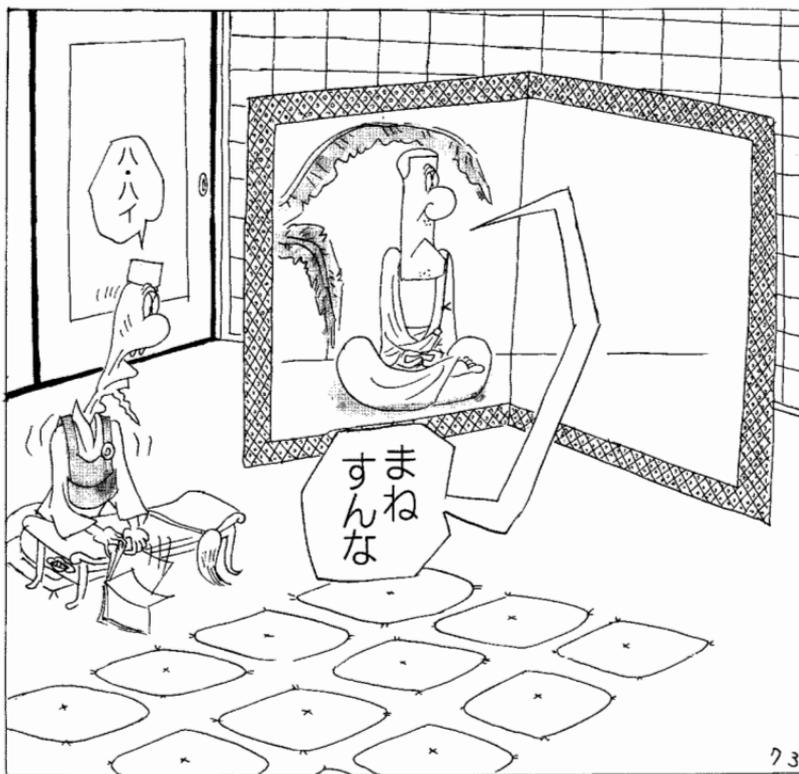












世の中は
食うてかせいで
寝て起きて
さて
その後は
死ぬる
ばかりぞ



一休
(1394
〜
1481)
臨濟宗僧侶



地人館 E-books オンデマンド版
紙面のイメージは電子版と異なります。

秋 竜山 (あき りゅうざん)

1942 (昭和 17) 年、静岡県生まれ。

漫画家。

1971 年第 16 回小学館漫画賞を受賞した『ギャグおじさん』『親バカ天国』をはじめ、『ノッホホン氏』『スッテンコロリン劇場』、『Oh!! ジャリーズ』など多数の作品がある。

2016 年にその全作品を対象にして第 45 回日本漫画家協会賞文部科学大臣賞を受賞した。

あきりゅうざん こうあん ほとけ わら わ 秋竜山の公案コミック 仏が笑う十三話

著者 あきりゅうざん
秋 竜山

初版発行 2021 年 6 月 3 日

発行 ちじんかん
地人館

〒 116-0014 東京都荒川区東日暮里 6-56-6 長戸ビル 3 階

Tel 03-6806-7937 Fax03-6806-7939

<http://chijinkan.com/>

印刷・製本 有限会社 朋栄ロジスティック

©2021 Ryuzan Aki